

日本工学アカデミー談話サロン報告

-新たな市民科学がもたらすイノベーション：科学、教育、社会課題解決のアプローチ-

2017/10/23 開催 阿部 恭二

日本唯一の非政府系工学アカデミーである（公社）日本工学アカデミー（阿部博之会長、1987年設立）主催の第186回談話サロンが、2017年10月23日、「新たな市民科学がもたらすイノベーション：科学、教育、社会課題解決のアプローチ」をテーマに、東京・千代田区の御茶ノ水トライエッジカンファレンスで開催されました。この談話サロンでは、同アカデミーの理事で、8月3日の下水道展'17東京併催企画シンポジウム「水環境ひろば～市民科学と下水道～」で基調講演を行った東京都市大学特別教授の小堀洋美先生が話題提供とパネルディスカッションのモデレーターを務められる関係もあって、パネリストの一人として、シンポジウムでファシリテーターを務めた当NPOの阿部が参加しました。

談話サロンは第1部の話題提供と第2部のパネルディスカッションで構成され、第1部では、小堀先生が「Oxford辞典」（2014）で「市民が科学研究のプロセスに関わること」と市民科学が定義されていることや、情報社会の進展により、市民が日常的に情報ツールを用いてビッグデータを収集することが可能となった結果、市民科学が研究者の厳密で限定的な研究を補う新たな手法として評価されていることを報告した。さらに、市民科学が科学、教育、社会課題解決にイノベーションを起こしていることを多様な分野への応用事例や報告者の実践事例を通じて紹介するとともに、望ましい市民科学の要件やデザイン、市民科学の10原則についても言及されました。

第2部のパネルディスカッションでは、日本ではまだ社会的な認知が不十分である市民科学の裾野をいかに広げるかをテーマとして、3名のパネリストによる議論と会場との意見交換が行われました。パネリストは、研究者の立場から東京医科歯科大学の中島義和アカデミー会員、行政の立場から国土交通省水管理・国土保全局下水道部の岩井聖流域管理官付課長補佐、そして市民団体の立場から当NPOの阿部です。

中島会員は医療分野でのイノベーションやIoTの活用の視点から現状などについてコメントし、岩井課長補佐は「下水道の見える化と市民科学」のプロジェクトや、行政や市民団体向けに作成したガイドブックなどを紹介しました。当NPOからは、市民科学を成り立たせるための、下水道の情報発信の重要性を指摘しました。